保護者向けいじめ対策広報紙

# よりよいかかわりを求めて

一宮市いじめ対策推進委員会
令和６年度　冬号

広報紙「よりよいかかわりを求めて」は、一宮市や各学校で取り組んでいるいじめ対策について、保護者の皆様に知っていただき、力を合わせて安心・安全な学校をつくっていくことをねらいとして発行しています。

## ★いじめ等対策主任者会を開催★

１１月１９日（火）、第２回いじめ等対策主任者会を開催しました。会の冒頭で、いじめ対策推進委員長 大徳小学校 栗本孝弘 校長からは、「いじめトラブルの原因の一つは、子どもの言葉・態度である。学校で一番近くにいる大人である私たちが、正しい言葉遣いを心掛け、穏やかに接し、子どもへの理解を深めることがいじめをゼロに近づける方法である」と指導・助言がありました。

また、一宮市教育委員会学校教育課 藤原孝行指導主事は、いじめに関する文科省全国調査結果から、「いじめが原因で重大事態になったケースの約４割が、重大事態として把握される以前は、いじめとして認知されていなかったと報告された。このことからも、積極的にいじめを認知し、事案が大きくなる前の早期発見、早期対応が大切である。いじめは絶対に許されない行為でありながら、どの学校でも起こりうる問題であり、どの子どももいじめの被害者にも加害者にもなりうるすべての子どもに関わる問題である。最悪の事態を避け、いじめで辛い思いをしている子どもをなくすためにも、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につながる活動を積極的に行ってほしい。１２月の人権週間を有効に活用して子どもたちの意識を高めてほしい」という指導・助言がありました。

## 各部会からの報告より

### ①　調査部より

**＜いじめ解決の意欲・判断力の調査結果から＞**

（市内小学校６年生、中学校２年生を対象の調査）

「先生や親に伝えて、いじめを防止する」という回答が小中学校とも多いことが分かりました。併せて、「自分、または複数でやめるように言う」という回答も小中学校とも増加しました。

「学校のきまりを守っている」「人が困っている時、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えている児童生徒も高い数値でした。

また、「ネット上に、他人の悪口を書き込むことはいけないことである」と認識している小中学生の割合が例年高いです。しかし、ＳＮＳに関するトラブルが増えている現実もあり、今後も児童生徒への予防的生徒指導と同時に保護者への注意喚起をしていく必要があります。

### ②　子ども支援部より

いじめ等対策主任を中心に、各学校で「全校で取り組む『いじめについて考える』話し合い活動」、「よりよい人間関係づくりのためのコミュニケーション技術向上の活動」に取り組んでいることと思います。

今年度は以下のように、小学校中・高学年と中学生版指導展開例を作成しました。

**中学年用「自己紹介をしよう！」**
**高学年用「ネットいじめは人権侵害」**
**中学校用「ＳＮＳやメールによるいじめへの向き合い方を考えよう」**

８月２３日(金)にデスクネッツで学級経営研究委員会から発出された「クラスのつながりを強くするアイスブレイク集」と併せて実践されると効果的です。日々の授業でご活用ください。

### ③　広報・研修部より

８月７日（水）、尾西生涯学習センターにおいて、「夏季集中研修講座　いじめ対策研修会」を開催し、小・中学校に分かれ、事例をもとにグループ協議を行いました。どの先生方も「自分がその学級担任だったら」という視点で、意見交換をしました。また、研修会の後半は、広報・研修部から、一宮市のいじめ対策委員会で作成している「いじめ対策ハンドブック」収録データ（いじめの未然防止や子どもたちの心を豊かにするための指導展開例）の活用方法を紹介しました。各学校での積極的な活用をよろしくお願いします。

## グループ別情報交換・話し合い

中学校区別のグループに分かれ、以下の（1）～（3）について情報交換や話し合いをし、その後、情報共有を行いました。

（1） ＳＮＳトラブル事案等、いじめの早期発見に向けて
（2） 関係諸機関との連携について
（3） 各中学校区での情報交換等

### 【情報共有の様子】

子どもたちから、同じようなトラブルの訴えを聞くことが続くと、「またか」と受け流してしまうことがあるが、意外とそういうところに、さらに大きなトラブルに発展する原因がひそんでいることがある。些細なことでもきちんと聞く意識と体制をつくっていくことが大切だということを確認した。

ＳＮＳに関しては、グループラインでの仲間外れ、TikTok、YouTube で友だちの画像を勝手にアップしてしまう等の事案があった。
ネットモラル教育は児童・生徒と保護者が一体となって行っていくことが必要である。また、ネットモラル教育と同時に、情報リテラシー教育を行い、子どもたちが安心して、安全にネット社会で生きていく力を高めることが大切だと話し合った。

警察・児童相談センターと関わりのある事案については、管理職への報告、速やかな連携、迅速な対応が大切である。１日でも遅れるとさらに重大なトラブルに発展する事案もあるので、細やかな相談を行いながら、関係各所との連携を進めることが大切だと話し合った。

### 【いじめ等対策主任者会を終えて　いじめ対策主任の感想より抜粋】

- 調査部のデータ結果が大変興味深かったので、自校で伝えていきたい。また、同じ中学校区の先生方と話し合うことで、同じようなＳＮＳトラブルやいじめ事案を共有し、一緒に考えることができたことが有意義であった。
- ＳＮＳでのトラブルが小学校高学年・中学校で多い。関口先生の話にもあったが、話し合い活動を通して、個々に考えさせる時間を与えることが大切だと思うので、定期的に話し合いの場を設けていきたいと思った。
- グループでの話し合いの中で、いじめの早期発見対策として、「心の天気」のよさを教えてもらった。自校でも取り組んでいるが、今よりも充実させる必要があると感じた。

## 一宮市主席スクールカウンセラー　関口　恵子先生より

ＳＮＳに関してのトラブルがとても多いように感じる。どうやって保護者と学校が連携をとりながら、子どもたちを見守っていくかが難しい。いじめは、いじめに関わったすべての子どもに、心の傷として残ることが多い。だから、周囲の大人がきちんと関わる必要がある。大人が指導する、共に考えるのも大切である。また、いかに自分で解決していくスキルを身に付けるか、解決できなくても、きちんと向き合ったという体験をどれだけもつかということが大人になってからとても大切なスキルになる。話し合い活動を通して、主体的に自分がどう動いていったらよいのか、子どもたち（個）が考えていくことが、前に進むための糸口になるのではいかと考えている。１２月の人権週間も含め、日頃から話し合い活動に教育のプロとして関わってほしい。